

山行報告書

日時	2017年 12月9日(土)～10(日)		天候	9日 曇 10日 曇りのち雨
山名	仙酔峡～中岳・高岳 県連登山学校			
CL	木下講師	参加者	講師:高藤 受講生:遠田、大久保、岡崎	
HP記載の有無:				
(コース)	<p>12/9 (土): 18:00～21:00 冬山装備、ジオグラフィカの使い方 21:00～23:00 懇親会</p> <p>12/10(日): 06:40～15:00 実践講習 地図読み、クランポンを付けてコンテ、 フィックスロープ、クランポン&わかんの着脱</p> <p>15:00～16:00 温泉 16:00～17:00 反省会、次回のカリキュラム説明</p>			
(コメント)	<p>冬山の装備説明に関しては、昨年、雪山を経験していた事と、一通り雪山の装備も購入していたのである程度理解出来ました。シェルパーカーのポケットはハーネスと干渉しない位置にあるか？またアクセスしやすい位置か？、大きさは？など、装備1つ1つについて細かな説明が聞けたので次に購入する時の参考になりたいです。またザックやアイゼンなどに色々な工夫をして使いやすいようにされていて非常に勉強になりました。早速、次の日にアイゼンとワカンの紐の先端を斜めにカットしアロンアルファを塗って紐を通しやすいようにしました。このような事前の準備が、実際の雪山での作業時間の短縮に繋がり、危険を回避する事に繋がるのだなと思いました。仙酔峡登山では初めにピッケルの向きと持ち方、滑落時の注意点などを教えて頂きました。ピッケルは進行方向に対して山側の手で、通常は尖った方を後ろ向きにしヘッド部分を持って歩く。以前、登りの時は尖った方を前にすると教えて頂いた事があったので、正しい持ち方を教えて頂いて参考になりました。滑落時はピッケルを手で抑えて雪に刺し、その上に体を乗せて深く刺して止める。すぐに止めないと止まらない。</p> <p>落ちてる時にアイゼンで止めようとする勢いが凄く突っかって体ごと飛ばされるので、膝から下はアイゼンが引っ掛かからないように足を上げてアイゼンを地面から離し、股を広げて股に雪を挟み込むような感じで勢いを緩めて止める。頭では理解出来ましたが実際に体が動くのかな？と思いました。どこかで練習する機会があればなと思います。途中からアイゼンを装着しての歩行訓練だったのですが、殆ど雪がない岩がゴロゴロの所だったので非常に歩きにくく、また靴の紐の結びが甘かったようで何回か足をくねらせそうになりました。本番前のよい確認となりました。大阪方式のコンテでは前回教えて頂いた内容がうる覚えで初めは自分でセット出来ませんでした。遊びのロープの巻き方や、そのロープを持つ時の指のセットの仕方などが難しく、今回の講習で一応理解は出来ましたが繰返し家で練習が必要だなと感じました。コンテで移動する前に後ろのメンバーが落ちた場合の練習を行いました。自分は止まった状態で後ろのメンバーが落ちた時の練習をさせて頂いたのですが、初めは上手くロープを後ろに流す事が出来ませんでした。何回か練習して何とか出来たと言う感じなので、次回の講習でも繰返し練習させて頂けたらなと思います。コンテで移動している時はメンバー間でのスピードの調整や間隔などが難しく、1人1人がもっと注意して適正な距離を保って歩けるようにしないと1人が落ちたら全員が巻き込まれる事になると感じました。メンバー間の連携が大切だと思います。稜線では物凄い風で吹き飛ばされないようにするのが大変で、何度かバランスを崩しそうになりヒヤリとする事がありました。</p> <p>稜線上では今回の様な暴風にさらされる事があるので、稜線に上がる前に事前に衣服の調整などの準備が必要だと思いました。自分のチームは天候の回復が見込めない為、途中で引き返したのですが、引き返す判断をする勇気も大切な事なんだと学びました。最後にワカンの装着の練習があったのですが、自分のワカンの紐の調整が事前に出来ていませんでした。今回どのくらいの長さによければよいかを教えて頂いたので次回以降の雪山ではもたもたせずに装着出来るのではないかと思います。今回の講習で学んだ事をもう一度整理し、事前に準備しないといけない所の洗出しと準備を行い、次回以降の雪山講習に挑みたいです。</p>			
費用概算	<p>(交通費/人)</p> <p>(その他/人)</p>			

(2016.01.27改訂)